

血液浄化療法部

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	4 人	

2 教員の異動状況

加藤 明彦（病院教授）（2012 年 6 月 1 日～現職）

坂尾 幸俊（診療助教）（2011 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日、退職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	8 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	15.27	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	16 編	(16 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Yukitoshi Sakao, Takeshi Sugiura, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Hideo Yasuda, Yoshihide Fujigaki, Akihiko Kato. Clinical manifestation of hypercalcemia caused by adrenal insufficiency in hemodialysis patients: a case-series study. Intern Med 53: 1485-1490, 2014 【腎臓内科】、[0.97]
 2. Akihiko Kato, Ryo Kido, Yoshihiro Onishi, Noriaki Kurita, Masafumi Fukagawa, Tadao AKizawa, Shuichi Fukuhara. Association of serum bicarbonate with bone fractures in hemodialysis patients: The Mineral and Bone Disorder Outcomes for Japanese CKD Stage 5D Patients (MBD-5D). Nephron Clin Pract 28: 79-87, 2014 【腎臓内科】、[1.65]
 3. Akihiko Kato, Takako Takita, Hiromichi Kumagai. Relationship between arterial stiffening and skeletal atrophy in hemodialysis patients: a gender comparative study. J Cachexia Sarcopenia Muscle 5: 247-249 【腎臓内科】、[7.41]
- インパクトファクターの小計 [10.03]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
1. Naro Ohashi, Naoko Tsuji, Yoshitaka Naito, Takamasa Iwakura, Shinsuke Isobe, Masafumi Ono, Tomoyuki Fujikura, Takayuki Tsuji, Yukitaka Sakao, Hideo Yasuda, Akihiko Kato, Yoshihide Fujigaki. Alogliptin improves steroid-induced hyperglycemia in treatment-naïve Japanese patients with chronic kidney disease by decrease of plasma glucagon levels. Med Sci Monitor 20: 587-593, 2014 【腎臓内科】、[1.22]
 2. Takako Takita*, Mitsuyoshi Furuhashi, Taiki Fujimoto, Hiroo Suzuki, Masaki Harada, Satoshi Maruyama, Rika Tamiya, Eri Kamitya, Mari Okamoto, Atsuyo Tukada, Mikako Furuhashi, Akihiko Kato. Effects of change on the formulation of lanthanum carbonate on laboratory parameters. Ther Apher Dial 18 (Suppl 1): 18-22, 2014 【腎臓内科】、[1.53]
 3. Takamasa Iwakura, Yoshihide Fujigaki, Tomoyuki Fujikura, Naro Ohashi, Akihiko Kato, Hideo Yasuda. A high ratio of G1 to G0 phase cells and an accumulation of G1 phase cells before S phase progression after injurious stimuli in the proximal tubule. Physiol Rep 2: e12173, 2014 【腎臓内科】、[0.00]
 4. Noriyuki Enomoto, Masashi Mikamo, Yoshiyuki Oyama, Masato Kono, Dai Hashimoto, Tomoyuki Fujisawa, Naoki Inui, Yutaro Nakamura, Hideo Yasuda, Akihiko Karo, Soichiro Mimuro, Matsuyuki Doi, Shigehito Sato, Takafumi Suda. Treatment of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis with direct hemoperfusion using a polymyxin B-immobilized fiber column improves survival. BMC Pulmonary Med 15: 15, 2015 【呼吸器内科】、[2.49]

5. 木村竜希、江間信吾、水口智明、森田耕司、峯田周幸、加藤明彦. 透析患者における心臓血管手術後の CHDF 回路寿命に対するメシル酸ナファモスタット先発品および後発品の比較、日本急性血液浄化学会誌 5: 62-65, 2014 【腎臓内科】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [5.24]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤明彦: 透析患者のロコモティブシンドロームーサルコペニアと運動・栄養療法、日本透析医会誌 29 (1): 12-18, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
2. 加藤明彦: CKD 患者におけるサルコペニアとフレイル、Geriatric Medicine (老年医学) 52 (4) : 397-402, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
3. 加藤明彦: 座談会 AKI の新時代、Fluid Management Renaissance 4 (2): 107-116, 2014 【腎臓内科】、[0.00]
4. 加藤明彦: 栄養障害、Clinical Engineering 25 (8): 806-813, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
5. 加藤明彦: アドバンス透析ケア サルコペニア、透析ケア 20 (10): 90-100, 2014、腎臓内科】、[0.00]
6. 加藤明彦: サルコペニアとフレイル、医工学治療 26 (3): 39-144, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
7. 加藤明彦: 慢性腎臓病に対する食事摂取基準 2014 年版、透析ケア 20 (12): 1180-1182, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
8. 加藤明彦: 慢性腎臓病に対する食事摂取基準 2014 年版、Nutrition Care 7 (12): 1238-1240, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
9. 坂尾幸俊, 加藤明彦. 腎症の後期(第 5 期)の病態と治療. 糖尿病ケア. 11: 32-33, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
10. 坂尾幸俊, 加藤明彦. 透析とは. 糖尿病ケア. 11: 34-35, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
11. 加藤明彦: 治療医学から予防医学へ、臨床透析 31 (1): 5-6, 2015、【腎臓内科】、[0.00]
12. 加藤明彦: 末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC) からの高カロリー輸液、Medical Practice 32 (増刊号) : 122-125, 2015、【腎臓内科】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 石川敬子、加藤明彦: ノロウイルス感染症、臨床透析 30 (7): 823-833, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
2. 藤倉知行、加藤明彦: 急性腎障害への導入基準と方法、離脱、持続、間欠、透析処方、腎と透析、増刊号 透析・腎移植のすべて 76: 121-124, 2014、【腎臓内科】、[0.00]
3. 辻 孝之、加藤明彦: 栄養障害への対策—MIA 症候群も含めて— 医師の立場から、臨床透

析 30 (10): 1229-1235, 2014、【腎臓内科】、[0.00]

4. 石川敬子、大橋温、加藤明彦: 体液量の管理ができず、心不全を繰り返す認知症患者への看護、臨床透析 30 (12): 1611-1616, 2014、【腎臓内科】、[0.00]

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤明彦: 食思不振、大平整爾、伊丹儀友編、血液透析施行時のトラブル・マニュアル、症例別・トラブル別にみた対応策 改訂第3版、日本メディカルセンター、東京都、pp. 64-71、2014年、【腎臓内科】
2. 加藤明彦: 急性腎不全(AKI)、臨床栄養実践ガイド、丹羽利充編、中外医学社、東京都、pp. 140-144、2014年、【腎臓内科】
3. 加藤明彦: 透析患者の検査は特殊である、加藤明彦編、いまさら訊けない! 透析患者検査値のみかた、考えかた、中外医学社、東京都、pp. 1-7、2014年、【腎臓内科】
4. 加藤明彦: アルブミン、加藤明彦編、いまさら訊けない! 透析患者検査値のみかた、考えかた、中外医学社、東京都、pp. 81-84、2014年、【腎臓内科】
5. 坂尾幸俊: コルチゾール/ACTH、加藤明彦編、いまさら訊けない! 透析患者検査値のみかた、考えかた、中外医学社、東京都、pp. 165-170、2014年、【腎臓内科】

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	1 件	(100 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

- (1) 文部科学省科学研究費
- (2) 厚生労働科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

1. 食塩負荷による AKI 予防機序の解明— (プロ) レニン受容体の関与について、ソルト・サイエンス研究財団、平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月、100 万円

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	12 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	0 件	6 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	9 件
(6) 一般演題発表数	3 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Akihiko Kato, Yukitoshi Sakao, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Hideo Yasuda: Association of appendicular lean body mass and truncal fat mass indexes with all-cause mortality in hemodialysis patients. American Society of Nephrology Kidney Week 2014. 2014 年 11 月 15 日、フィラデルフィア、米国
2. Naoko Tsuji, Hideo Yasuda, Takayuki Tsuji, Naro Ohashi, Akihiko Kato, Yoshihide Fujigaki. Mitochondrial DNA contributes to sepsis induced acute kidney injury via toll-like receptor 9. American Society of Nephrology Kidney Week 2014. 2014 年 11 月 12 日、フィラデルフィア、米国
3. Takayuki Tsuji, Yukitoshi Sakao, Naro Ohashi, Hideo Yasuda, Seiji Hashimoto, Kunitoshi Iseki, Yoshiharu Tsubakihara, Akihiko Kato. Association of the geriatric nutritional risk index and the Glasgow prognostic score at the initiation of hemodialysis therapy with all-cause mortality in the nation-wide registry cohort study in Japan. American Society of Nephrology Kidney Week 2014. 2014 年 11 月 13 日、フィラデルフィア、米国

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第 32 回静岡栄養・代謝の集い、2015 年 3 月 14 日（土）静岡労政会館、静岡市

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 加藤明彦：透析患者のサルコペニア予防、第 27 回千曲川セミナー、2014 年 5 月 31 日、長野市
2. 加藤明彦：腎不全患者におけるたんぱく質制限の功罪～サルコペニア予防の重要性～、第 6 回腎不全の輸液と栄養を考える会、2014 年 7 月 11 日、東京都
3. 加藤明彦：透析患者におけるフレイル・サルコペニア対策、第 6 回長崎透析医療セミナー、2014 年 7 月 31 日、長崎市
4. 加藤明彦：透析患者の運動器障害～サルコペニアと栄養・運動療法、第 11 回北海道高齢者透析研究会、2014 年 8 月 9 日、札幌市
5. 加藤明彦：透析患者の栄養障害と対策、腎と透析講演会、2014 年 8 月 21 日、岡山県倉敷市
6. 加藤明彦：透析患者のサルコペニアについて、第 23 回 OF 透析談話会、2014 年 8 月 23 日、岡山市
7. 加藤明彦：透析患者のサルコペニア・フレイル対策、第 15 回春日井透析セミナー、2014 年 9 月 4 日、春日井市
8. 加藤明彦：サルコペニアに対する運動・食事療法、第 48 回四国透析療法研究会、2014 年 9 月 28 日、高知市
9. 加藤明彦：透析患者のフレイル・サルコペニア対策、第 30 回くれじんの集い、2014 年 11 月 1 日、広島県呉市
10. 加藤明彦：透析患者におけるフレイル・サルコペニア対策、第 88 回神奈川腎研究会 第 30 回神奈川県透析施設連絡協議会合同研究会、2014 年 11 月 23 日、横浜市
11. 加藤明彦：透析患者におけるサルコペニアの現状と対策、第 18 回尾張北透析セミナー、2015 年 3 月 7 日、小牧市
12. 加藤明彦：CKD におけるサルコペニアとフレイル、第 12 回東葛透析栄養セミナー、2015 年 3 月 31 日、千葉県松戸市

3) シンポジウム発表

1. 加藤明彦：食事療法：特別企画 2、よくわかるシリーズ 9、CKD 患者におけるたんぱく制限を中心に、第 57 回日本腎臓学会学術大会、2014 年 7 月 5 日、横浜市
2. 加藤明彦：高齢人工透析患者におけるフレイル・サルコペニア対策、第 52 回日本人工臓器学術集会、2014 年 10 月 18 日、札幌市
3. 加藤明彦：食事療法：CKD および糖尿病性腎症における蛋白制限を中心に、第 26 回日本糖尿病性腎症研究会、2014 年 12 月 7 日、東京都

4) 座長をした学会名

1. 透析患者の栄養障害に対する新たなアプローチ、第 59 回日本透析医学会学術大会・総会、2014 年 6 月 14 日、神戸市
2. CHDF 施行中の栄養管理、第 25 回日本急性血液浄化学会学術集会、2014 年 10 月 11 日、千

葉市

3. ポスター演題「血液透析・合併症 2-P」、第 44 回日本腎臓学会東部学術大会、2014 年 10 月 24 日、東京都
4. 一般演題、第 17 回腎と栄養代謝研究会 in 京都、2014 年 12 月 20 日、京都市
5. CKD の栄養管理、分類の問題点、第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会、2014 年 1 月 10 日、京都市
6. オンライン HDF 用透析装置の現状と近未来、日本医工学治療学会第 31 回学術大会、2015 年 3 月 28 日、広島市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 加藤明彦：日本内科学会 総合内科専門医 (1977)、指導医、東海地方会評議員
2. 加藤明彦：日本腎臓学会 専門医 (93037)、指導医 (1297)、評議員
3. 加藤明彦：日本透析医学会 専門医 (1782)、指導医 (850)、評議員
4. 加藤明彦：日本病態栄養学会 病態栄養専門医、指導医、代議員
5. 加藤明彦：日本静脈経腸栄養学会 認定医、評議員
6. 加藤明彦：アメリカ腎臓学会 フェロウ (FASN) (310)
7. 加藤明彦：日本医工学治療学会 評議員
8. 加藤明彦：日本急性血液浄化療法学会 評議員
9. 加藤明彦：日本臨床薬理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	4 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 加藤明彦：臨床透析 (日本メディカルセンター) 編集委員 インパクトファクター無
2. 加藤明彦：Nutrition Care (メディカ出版) 編集同人 インパクトファクター無
3. 加藤明彦：透析ケア (メディカ出版) 編集同人、インパクトファクター無
4. 加藤明彦：日本病態栄養学会誌 編集委員、インパクトファクター無

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

加藤明彦：

1. Clinical Experimental Nephrology (日本) 10 回
2. Internal Medicine (日本) 3 回
3. Therapeutic Apheresis Dialysis (米国) 3 回
4. Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition (中国) 3 回
5. Clinical Experimental Nephrology Case Reports (日本) 2 回
6. Nephron Clinical Practice (スイス) 2 回
7. American Journal of Nephrology (米国) 2 回
8. Clinical Intervention in Aging (英国) 1 回

- 9. The Scientific World Journal (エジプト) 1 回
- 10. Cardiovascular Diabetology (英国) 1 回
- 11. Clinical Chemistry Laboratory Medicine (英国) 1 回
- 12. Nephrology Dialysis Transplantation (イタリア) 1 回
- 13. BMC Nephrology (英国) 1 回
- 14. Irish Journal of Medical Sciences (英国) 1 回
- 15. Hemodialysis International (米国) 1 回

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	3 件
(3) 学内共同研究	2 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

加藤明彦：透析患者の筋肉量に関する研究、丸山病院、資料の交換

加藤明彦：食事中的リン含有量に関する検討、金城学院大学、資料の交換

加藤明彦：透析患者におけるカルニチン欠乏に関する検討、国立病院機構柳井医療センター
資料の交換

(3) 学内共同研究

加藤明彦：急性腎不全の発症・成立機序に関する研究、第一内科、資料の交換

加藤明彦：がん化学療法時における体構成成分の変化の検討、栄養部、資料交換

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 血液透析患者における内臓脂肪および大腿部筋肉量に関する研究

血液透析患者の腹部内臓脂肪、腹部皮下脂肪および大腿筋肉面積を単純 CT から測定し、動脈硬化性変化との関連が男女で異なることを明らかにした。(加藤明彦)。

2. 血液透析患者における筋肉代謝の調整因子の検討

血液透析患者の筋肉代謝の関連因子を血清学的に検討した (加藤明彦)。

3. 虚血性急性腎不全における（プロ）レニン受容体発現に関する研究

ラット虚血性急性腎不全において、腎組織内の（プロ）レニン受容体は増加し、その下流シグナルのリン酸化 ERK の増加が虚血性急性腎不全に主に関与することを発表した（小野雅史、加藤明彦）。

4. 日本の血液透析患者における体格指数が生命予後に及ぼす影響に関する研究

日本透析医学会の統計調査データを用い、血液透析患者の体格指数と1年予後との関連を検討した。その結果、体格係数に関わらず、筋肉量減少は生命予後と関連することを明らかにした（坂尾幸俊、加藤明彦）。

5. 血液透析患者における血漿グレリンとヘリコバクターピロリ感染の関連に関する検討

胃で産生される食欲増進ホルモンであるグレリンがピロリ菌感染の影響を受けるか、透析患者で検討した。ピロリ菌感染者の血漿グレリンレベルは非感染者に比べ低値となる傾向はあるものの有意でなかった。しかしグレリンは血清ペプシノーゲン I と有意な関連を示し、胃粘膜萎縮の影響を受ける可能性が示唆された（坂尾幸俊、加藤明彦）。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 透析患者のサルコペニアに注目し、その成立機序や臨床的意義について、学会シンポジウムや国際学会で発表している。
2. 急性腎障害（AKI）の成立機序におけるレニン・アンジオテンシン系（RAS）に注目し、腎組織内の RAS 亢進が AKI の成立に関与することを明らかにした。来年度は、AKI における筋萎縮に注目し、筋肉内 RAS について評価する予定である。さらに、AKI に対するエリスロポエチン治療により、筋代謝が影響されるかについて評価する予定である。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 長寿の医学 健やかに過ごすために 浜松医科大学公開講座 食生活のコツ(上)、中日新聞、2014年8月22日
2. 長寿の医学 健やかに過ごすために 浜松医科大学公開講座 食生活のコツ(下)、中日新聞、2014年9月5日